

外国人観光客を福井に呼び込む



外国人観光客へのおもてなし



大野市 旧田村家のフォトスポット



高浜町の英語版WEBサイト



ピクトグラムによる案内



商談会での売り込み

訪日外国人は昨年3000万人を突破し、福井県でも外国人宿泊者数が年々増加しています。東京2020オリンピック開催や北陸新幹線福井・敦賀開業の機会を生かし、増加する訪日外国人旅行(インバウンド)を福井に呼び込んでいきます。

県内で進むインバウンド戦略

フェイスブックやインスタグラムなどSNSの普及で旅の思い出を簡単に共有できる時代。定番の観光地だけでなく、SNSの情報をもとに個人旅行をする外国人が増えています。

大野市では、「天空の城」越前大野城の幻想的な写真が話題ですが、2つの武家屋敷では夏限定で涼を感じるフォトスポットが誕生。旧内山家には越前大野城が見える城見窓付き夏障子を、旧田村家には300個以上の風車が並ぶ棚を設置するなどSNSでの写真映えを狙いました。引き続き、フォトスポットに力を入れ、

海外からの観光誘客につなげていきます。

また、高浜町では、2021年5月、若狭和田ビーチで世界最大級の生涯スポーツの祭典「ワールドマスターズゲームズ2021関西」のライフセイビング競技が開催され、多くの外国人が訪れます。このため、外国人のインバウンド専門家を招いて、イチゴ狩りや工芸体験などの外国人向けプログラムを充実させていきます。

さらに、明治時代に日本人の僧として初めて「禅」を「ZEN」として欧米に伝えた釈宗演(1860〜1919)の生地であることから、英語版WEBサイトを

「ZEN Japan」を開設しました。

このような取り組みをはじめ、県内市町では、受入環境の整備や海外への情報発信を進めています。

海外へ福井を売り込む

県内に宿泊する外国人観光客は、昨年延べ8万人。国・地域別にみると、台湾、香港、中国の順に多く、全体の約6割を占めています。

「ZEN Japan」を開設しました。このような取り組みをはじめ、県内市町では、受入環境の整備や海外への情報発信を進めています。

より多くの外国人観光客を受け入れるためには、文化や環境の違いによって感じる不便さや不安感を解消することが必要です。

外国人が困ることの一つに、多言語表示の少なさやわかりにくさがあります。そのため、福井市中心部やあわら温泉の宿泊施設では、館内の案内表示を国際標準である「ピクトグラム(案内用図記号)」に切り替える取り組みが始まっています。

このほか、旅の途中に自由に情報収集ができる無料の無線LAN整備や、外国人向けの免税店を増やすなど、県内の観光事業者によるおもてなしの環境整備を進めていきます。

県では、台湾からの誘客をさらに強化するため、情報発信や旅行会社などへの営業活動を代行する窓口(観光レップ)を現地に設置。旅行会社への継続的な訪問営業や県などが行う商談会をサポートしていきます。さらに、毎週SNSで本県の観光情報を発信。現地目線で情報を伝え、本県の認知度向上を図っています。

また、福井県の空の玄関口である小松空港には、台湾への定期便が毎日運航しています。このため、石川県と協力し、教育旅行や社員向けの報奨旅行などの誘致を行っています。

今後も、近隣府県と協力し、国・地域の嗜好や年齢層などに対応したPRを展開し、さらなる外国人観光客の増加を進めていきます。

◎観光誘客課 国際観光室
TEL 0776・20・0699 FAX 20・0381